

## 口蹄疫に関する机上防疫演習の結果と結果の検証の概要

### 1. 演習の結果と検証の内容

#### (1) 発生農場・周辺農場の把握について

##### 演習結果

- ・ 発生農場の所在地について、地図システム等で迅速に把握できず、住所情報を用いて手作業で特定した県（都道府である場合を含む。以下同じ。）が1県あった。
- ・ 発生農場の周辺農場を表示した地図を作成できない県が1県あった。
- ・ 20県で農場内の建物の配置図を作成できなかった。農場の詳細な所在地や建物の配置の特定にあたり、市町村との連携が必要な場合があることが確認された。
- ・ 9県では、利用する地図（道路情報など）の作成年が5年以上前のものであった（1県では作成年を特定できなかった）。
- ・ 周辺農場の飼養戸数・頭数について、地図システムを用いて迅速に算出できず、農場の住所と地図を用いた手作業で算出した県が6県あった。
- ・ 12県では、移動制限・搬出制限区域内に、処理能力を把握していない畜産関係施設（と畜場、家畜市場など）があった。

##### 改善方向

- ・ 農場、畜産関係施設に関する情報や地図データを日頃から把握し、定期的に更新する必要。

#### (2) 消毒ポイントについて

##### 演習結果

- ・ 主要道路であることを理由に選定された消毒ポイントが全体の59%と最も多く、畜産関係車両の利用が多いことを考慮して設定されたポイントは19%であった。

##### 改善方向

- ・ 消毒ポイントの設置にあたっては、畜産関係車両の利用頻度等を考慮するとともに、実際に設置が可能であるか市町村や土地の所有者と調整する必要。

#### (3) 埋却地について

##### 演習結果

- ・ 10県では、発生農場が埋却地を確保しているかを把握していなかった。
- ・ 5県では、埋却地が発生農場から1km以上離れていた。

#### **改善方向**

- ・ 埋却地については、あらかじめ農場に確認する必要。また、周辺農場への感染拡大を防ぐ観点から、できるだけ農場の近くに埋却地を確保すべき。
- ・ 今後、より大規模な農場や複数農場で発生した場合の埋却地の確保について検証する必要。

#### (4) 防疫措置に必要な人員数の把握について

##### **演習結果**

- ・ 市町村、農協等からの派遣を見込んでいる場合に、派遣先ごとの人数の配分ができていない県が17県あった。
- ・ 民間獣医師を活用するとした24県のうち、全ての派遣元機関とは調整できていない県が17県あった。

#### **改善方向**

- ・ 迅速に必要な人員を確保できるよう、発生時の体制について、派遣要請先ごとに具体的に検討しておくべき。
- ・ 民間獣医師の活用について関係機関との調整を進めるべき。

#### (5) 関係機関との連携について

##### **演習結果**

- ・ 防疫資材の調達先の全てについて、休日・深夜に連絡がつくことを確認している県は11県であった。
- ・ 発生時に連絡対応が必要となる、市町村や農協等の関係機関の全てについて、休日・深夜に連絡がつくことを確認している県は14県であった。

#### **改善方向**

- ・ 必要な資材の調達等のための関係機関との連携にあたっては、休日・夜間の連絡先の確認など、緊急時対応も念頭に置いた体制を整備すべき。

#### 2. 今後の防疫演習について

- ・ 今後、より大規模な農場や複数農場での発生などを想定した防疫演習を実施する。
- ・ 防疫作業の実施にあたっては、市町村の協力が不可欠なことから、市町村も含めた演習を実施する。